

2023年(令和5年)9月15日(金曜日)

# 新社長に聞く

日立ソリューションズ・クリエイト（東京都品川区）は、4月から南章一新社長による新体制でスタートを切った。南氏は日立製作所で長年金融システムのエンジニアを務め、プロジェクト管理の経験も豊富だ。「S/I（システム構築）とソリューションの両面を持つ強みを生かし、もつと存在感を高めていきたい」と話す南社長に戦略を聞いた。

――日立ソリューションズ・クリエイトの印象はいかがですか。

**南社長** 日立製作所時代は金融のプロジェクトで一緒にS/Iに取り組んできた戦友のような存在だと思っていた。実際に入社してみて、これまでS/Iの側面で見ることが多かったが、ワークスタイルやセキュリティーなど独自ソリューションを持ち収益にも貢献し

日立ソリューションズ・クリエイト 南 章一社長



※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。

【プロフィル】みなみ・しょ  
ういち 1964年4月5日生ま  
れ。東京都出身。横浜市立大  
学文理学部数学科卒。89年4  
月日立製作所入社。2016年4  
月金融ビジネスユニット金融  
システム事業部金融システム  
第五本部本部長。17年4月金  
融ビジネスユニット金融第二  
システム事業部金融システム  
第一本部本部長。19年4月金  
融ビジネスユニット金融第二  
システム事業部事業主管。日  
立ソリューションズ・クリエ  
イト社外取締役。23年4月日  
立ソリューションズ・クリエ  
イト社長（現職）。

在請け負う  
いるSIを  
実にこなす  
いくことを  
切だが、当  
ながらSI  
とPM（ペ  
ジェクトマ  
ジメント）  
はさらに高

め力ネ口力然大て確て

開する中で、特に  
ーションの領域で当  
性を出していくこ  
だ。新規事業の創  
り組んでいく。若  
は貴重だ。社員の  
を拾い上げながら  
術を生かしていき  
まざまな対話をし  
業の創出を目指す

**南社長** S.I.に関してはデータベースや運用をはじめ技術力も高く、社員が非常にあります。現状をどう目ますか。

**南社長** S.I.に関してはデータベースや運用をはじめ技術力も高く、社員が非常にあります。現状をどう目ますか。

**南社長** 新たなチャレジができる後押しをするところに投資も増やしていく。直接顧客に提案できるソリューションを開発して

更はありますか。  
**南社長** 中計の基本方針  
は継続しながらも、ソリューションは動きの早い世の中に合わせて柔軟に取り組

業と連携し  
効果)を出  
いく。

のシナジー（相乗効果）を生み出すようにして

を高めていきたい  
——今後の展望

ソリューション領域で独自性を出す

立ではできないこだわりの  
あるソリューションも多く  
さまざまなチャレンジをして  
いる会社だと感じてい  
る。

——グループ再編などで  
合併を経験している会社で

割が日立製作所からの請負事業になつてゐるため、かつ独自のソリューション事業を強化していく必要があると見ている。

でなく当社自身が前面に  
ち日立グループ内外で壇  
てもらえるような存在に  
ていみたいと考えている  
——中期経営計画では  
一クスタイルやセキュリ  
ティーなど五つの重点事業  
掲げていますが、施策に

新たな動き  
ループから  
アル制作な  
ザーエクス  
の領域を支  
ルコミュニ  
を移管しな  
い事業にな

では、4月にグローバル技術系のマニュアルなどの支援やエコペーリエンスなど支援するテクニカルセーション事業に参入するため、当社事

「 」という話ではない  
ムを構築する本質  
けられるようにし  
けない。若手には  
ステムの本質は何  
うようにしている  
ムを構築する技術  
を習得することが  
を

常に真面目に取り組んでいた。同時に若手中心に非常団に元気が良く、いい雰囲気ができている。一方で約

いけるような基礎をつく  
ていきたい。特にソリュ  
ーションは、日立や日立ソ  
リューションズとの連携など

んでいく。  
極的に投資  
めていきた  
れる頃或は

重視する分野を見極め、より強化する。

ていく必要がある  
新たな技術習得な  
になるが、単に最  
タル技術を習得す

ていく必要があるだろう。新たな技術習得なども必要になるが、単に最新のデジタル技術を習得すればよいという話ではない。システムを構築する本質に目を向けるようにしないといけない。若手には「情報システムの本質は何か」を問うようにしている。システムを構築する技術やツールを習得することが目的ではなく、システムの本質を見ることで自ずと必要な技術が見えてくるからだ。手段と目的を明確にして技術力を高めていきたい。

——今後の展望は。